令和3年度 農山漁村振興交付金(山村活性化対策) 事業実施主体 評価結果

1. 事業評価の実施

令和3年度に実施された農山漁村振興交付金(山村活性化対策)の事業について、「農山漁村振興交付金(山村活性化対策)実施要領」(平成30年3月28日付け29 農振第2261号農林水産省農村振興局長通知)の第9の1の(1)の規定に基づき、評価を行ったので、その結果を公表する。

2. 評価結果

ſ	都道府県	市町村	事業実施主体名	事業実施段階							評価		価	7	×	' /	,
Ľ				H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	ні іш	FI	ІШ		<i></i>		1.
	長野県	伊那市	伊那市	•	•	•					Α	今後も地域の なっていくこと	実情に合わ を期待しまっ	せながら す。	協力者を増	増やし、安	定的な活動と

- (注1)「事業実施段階」の凡例: ○・・交付対象年度(計画) ●・・交付対象年度(実施済) □・・目標年度(計画) ■・・目標年度(実施済)
- (注2)「評価」の区分: A・・優良 B・・良好 C・・低調

3. 第三者の意見聴取

農山漁村振興交付金実施要領別紙3の第7の1の規定に基づき、第三者である木平英一氏から評価に当たり意見の聴取を行った。第三者及び意見聴取の概要は以下のとおり。

【第三者】

木平 英一

【意見聴取の概要】

取り組み最終年度ということで、3項目の目標に対し、いずれも対前年で良い成績を残しており、精力的に活動されたことは評価できる。また、新たな連携先や、新規の協力者の参画もあり、安定的な体制づくりに寄与したと判断される。また、アフターコロナを見据えた都市―地方間の交流についても今後の展開に期待する。 耕作放棄地の解消については、地域課題の根幹にかかわる問題でもあり、目標を大きく越える実績に繋がったことは高く評価できる。

農山漁村振興交付金(山村活性化対策) 評価シート

	· · · · ·										
 1. 事業実施主体(評価者) 	伊那市		事業開始年度	目標年度	事業実施期間						
2. 取組振興山村名	旧 高遠町(長藤村、三義村、藤澤村)		平成27年度	令和3年度	令和3年4月1日~令和4年3月31日						
3. 事業費(うち国費)	なし(交付金はH29年度で終了)										
4. 第三者氏名	木平 英一										
5. 事業評価											
総合評価											
	取組の実施状況や目標の達成に必要な取組が十分に行われたか。 (①から④までを踏まえた総合的な評価)				(評価理由及び助言等のコメント)						
評 価 (該当に○)	(A) (B) (C)	重点指導対象	がいかとの連携も有実に進めてさらおり、う後の行産的販売は17 Cいく工でも相楽に寄与すると考えられる。 今後も、地域内外に対し、人材や連携先とのマッチングを進め、取り組みを発展させていくことを期待する。								
① 取組状況											
○ 目標の達成に資するの†	とめの取組が行われたか。		(評価理由及び助言等のコメント) 地域内、地域外(都市部)でそれぞれ、新たな参画者や連携先を獲得し、新商品の開発等に精力的に取り組んだ点は評								
評 価 (該当に○)	(A) (B) (C)	重点指導対象	──一価できる。 耕作放棄地の解消も、年々面積を増やしており、今後の更なる拡大を期待する。								
② 事業実績	l .										
○ 事業実施計画の目標は	達成できているか。		(評価理由及び助言等のコメント) 1 特用林産物の増殖による売上げ 695千円 (R3目標 563千円) 達成率123%								
評 価 (該当に〇)	(A) (B) (C)	重点指導対象									
③ 実施体制			•								
○ 事業実施主体の取組体			(評価理由及び助言等のコメント)これまで、参画者や協力者を増やすことが課題だたようだが、その解消に道筋が付いたことは評価できる。一今後も、地域課題に即し、参画者・協力者を増やし取り組みを拡大することを期待する。								
評 価 (該当に○)	(A) (B)	(C)									
④ その他											
V += *L +2	「二孝かご帝目聴命」でいる提合 第二字間で調整」										

別紙2

(任意評価様式第3号)

令和3年度

事業開始 7年目

長野県 伊那市

伊那市

農山漁村振興交付金(山村活性化対策)

○事業の実施状況

特用林産物(キノコ類)の増殖



割箸種菌 伏せ込みの様

高付加価値化による商品開発



精油(エッセンシャルオイル)抽出体験メニュー開発



里山の素材を使った松飾り

耕作放棄地解消(羊による除草管理)



〇今後の事業構想

補助金事業としてはH29年度で終了となったが、元々の活動母体である組織(伊那東部山村再生支援研究会)が引き継ぎ、取組みを継続した。 羊放牧に関しては、信州大学等との連携も強化し、優良な次世代の増殖や食用としての利用も含め、地域での普及を図りたい。 今年度、都市部における新たな連携先も開拓できたため、都市部との交流も図りながら、特産品の販売とリアルでの交流(伊那市への誘客等)の 両輪で取り組んでいきたい。